# 令和４年度　年間指導計画

| 教　　科　　名 | 技術・家庭科（技術分野） |
|---|---|
| 学年・年間授業時数 | １学年・３５時間 |
| 使用教科書(出版社) | 「技術・家庭 技術分野」（開隆堂） |
| 使用副教材(出版社) | 技術・家庭ノート　技術分野　（新学社） |
| 教 科 担 当 者 名 | 根岸　将人 |

## １　教科の目標

技術の見方･考え方を働かせ，ものづくりなどの技術に関する実践的･体験的な活動を通して，技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質･能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換 及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る 技能を身に付け，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深める。

(2)生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評 価･改善するなど，課題を解決する力を養う。

(3)よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実 に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

## ２　観点別学習状況の評価規準・評価方法

| 観点 | 評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|
| 知識<br>技能 | 生活と技術について理解しているとともに、それらに関わる技能を身につけている。 | ・定期考査<br>・実技テスト<br>・学習活動の観察<br>・作品<br>など |
| 思考<br>判断<br>表現 | 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | ・作品<br>・定期考査<br>・実技テスト<br>・学習活動の観察<br>・実習課題への取組<br>など |
| 主体的に<br>学習に取り組む<br>態度 | よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、創造し、実践しようとしている。 | ・学習活動への取組<br>・学習課題への取組<br>・実習課題への取組<br>・自己評価<br>など |

## 3　年間学習計画　《技術科：1年》

| 期 | 月 | 週 | 単元・教材名・配当時数 | 学習内容 | 学習のポイント |
|---|---|---|---|---|---|
| 前期 | 4 | 1 | **ガイダンス（1）** | | |
| | | 2 | **A材料と加工の技術（30）** | ・材料と加工の技術が生活や社会で果たしている役割に気づく。<br>・身の回りの製品に利用されている材料の種類と加工方法を知る。<br>・材料と加工の技術による問題解決の手順を知る。<br>・材料と加工の技術に関する製品にある問題解決の視点について考える。<br>・材料取りと部品加工に必要な作業の役割と方法を知る。 | ・技術が社会でどのように、生かされているかわかる。<br>・技術とわたしたちの関わりがわかる。<br>・技術の学習の内容がわかる。<br>・材料の種類・特徴・用途などがわかり、環境との関わりも説明でき、ノートにまとめることができる。<br>・ものづくりの設計の進め方がわかり、説明できワークシート等にまとめることができる。 |
| | | 3 | 1-1生活や社会と加工の技術 | | |
| | | 4 | 1-2材料を利用するための技術 | | |
| | 5 | 5 | 2-1問題解決の手順 | | |
| | | 6 | | | |
| | | 7 | | | |
| | | 8 | | | |
| | 6 | 9 | | | |
| | | 10 | | | |
| | | 11 | | | |
| | | 12 | | | |
| | | 13 | | | |
| | 7 | 14 | | | |
| | | 15 | | | |
| | | 16 | 2-2製作のための技能（木材） | ①部品表と工程表<br>②けがき<br>③切断<br>④切削<br>⑤穴あけ<br>⑥部品の検査と修正<br>⑦組み立て<br>⑧表面と角の仕上げ<br>⑨製作まとめ | ・部品表と工程表の見方が理解でき、作業の進め方がわかる。<br>・自分の設計にあわせて、けがくことができる。<br>・けがき線に沿って切断できる。<br>・切断面に沿って、適切に切削できる。<br>・けがき線に沿って、適切に穴あけができる。<br>・部品加工のあと、部品を適切に検査・修正できる。<br>・適切に組み立てができる。<br>・部品表に沿って、適切に表面と角の仕上げができる。<br>・製作の様子をまとめることができる。 |
| | 8 | 17 | | | |
| | 9 | 18 | | | |
| | | 19 | | | |
| | | 20 | | | |
| | | 21 | | | |
| | | 22 | | | |
| | 10 | 23 | | | |
| 後期 | | 24 | | | |
| | | 25 | | | |
| | | 26 | | | |
| | 11 | 27 | | | |
| | | 28 | | | |
| | | 29 | | | |
| | | 30 | | | |
| | 12 | 31 | | | |
| | | 32 | | | |
| | | 33 | 3材料と加工に関する技術の | ・材料と加工の学習を振り返ろう。<br>・材料と加工の技術と私たちの未来 | ・材料と加工に関する技術が，社会や環境に果たしている役割と影響についての理解を深める。<br>・材料と加工に関する技術の適切な評価と活用について，主体的に考える |
| | | 34 | | | |
| | 1 | 35 | | | |
| | | 36 | | | |
| | | 37 | | | |
| | 2 | 38 | | | |
| | | 39 | | | |
| | | 40 | | | |
| | | 41 | | | |
| | 3 | 42 | **D情報に関する技術（4）** | ・ネットワークの構成を知ろう<br>・情報を伝えるしくみを知ろう | ・ネットワークや情報を伝えるしくみについてまとめ、説明することができる。 |
| | | 43 | 1情報とわたしたちの生活 | | |
| | | 44 | 2情報通信ネットワークの利用 | | |
| | | 45 | | | |

＊（　）内の数字は配当時間を表す。

# 令和４年度　年間指導計画

| 教　　科　　名 | 技術・家庭科（技術分野） |
|---|---|
| 学年・年間授業時数 | ２学年・３５時間 |
| 使用教科書(出版社) | 「技術・家庭 技術分野」（開隆堂） |
| 使用副教材(出版社) | 技術・家庭ノート　技術分野　（新学社） |
| 教 科 担 当 者 名 | 根岸　将人 |

## １　教科の目標

技術の見方･考え方を働かせ，ものづくりなどの技術に関する実践的･体験的な活動を通して，技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質･能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換 及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る 技能を身に付け，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深める。

(2)生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評 価･改善するなど，課題を解決する力を養う。

(3)よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実 に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

## ２　観点別学習状況の評価規準・評価方法

| 観点 | 評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|
| 知識<br>技能 | 生活と技術について理解しているとともに、それらに関わる技能を身につけている。 | ・定期考査<br>・実技テスト<br>・学習活動の観察<br>・作品<br>など |
| 思考<br>判断<br>表現 | 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | ・作品<br>・定期考査<br>・実技テスト<br>・学習活動の観察<br>・実習課題への取組<br>など |
| 主体的に<br>学習に取り組む<br>態度 | よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、創造し、実践しようとしている。 | ・学習活動への取組<br>・学習課題への取組<br>・実習課題への取組<br>・自己評価<br>など |

## 3　年間学習計画　《技術科：2年》

| 期 | 月 | 週 | 単元・教材名・配当時数 | 学習内容 | 学習のポイント |
|---|---|---|---|---|---|
| 前期 | 4 | 1 | **ガイダンス（1）** | | |
| | | 2 | **A材料と加工の技術（11）**<br>2-2製作のための技能<br>＜金属＞ | 材料と加工に関する技術とわたしたち鋳造キーホルダーの製作①部品表と工程表<br>②けがき<br>③切断、切削<br>⑤穴開け<br>⑥仕上げ | ・部品表と工程表の見方が理解でき、作業の進め方がわかる。<br>・自分の設計にあわせて、けがくことができる。<br>・けがき線に沿って切断できる。<br>・切断面に沿って、適切に切削できる。<br>・けがき線に沿って、適切に穴あけ・溝ほりができる。<br>・部品加工のあと、部品を適切に検査・修正できる。・適切に組み立てができる。<br>・部品表に沿って、適切に表面と角の仕上げができる。<br>・製作の様子をまとめることができる。 |
| | | 3 | | | |
| | | 4 | | | |
| | 5 | 5 | | | |
| | | 6 | | | |
| | | 7 | | | |
| | | 8 | | | |
| | 6 | 9 | | | |
| | | 10 | | | |
| | | 11 | | | |
| | | 12 | | | |
| | | 13 | | | |
| | 7 | 14 | | | |
| | | 15 | | | |
| | | 16 | | | |
| | 8 | 17 | | | |
| | 9 | 18 | | | |
| | | 19 | | | |
| | | 20 | | | |
| | | 21 | **D情報に関する技術（6）**<br>1情報とわたしたちの生活2情報通信ネットワークの利用<br>3情報通信ネットワークと情報セキュリティ<br>4情報モラルと知的財産<br>5コンピュータと情報処理 | ・ネットワークの安全性について考えよう<br>・情報セキュリティについて知ろう<br>・利用するときのモラルについて考えよう。<br>・人権・個人情報・知的財産の保護について考えよう | ・ネットワークの安全性、セキュリティについてまとめ、説明することができる。<br>・情報を扱う際の、モラルについてまとめ、発表すること　ができる<br>・人権・固人情報・知的財産についてまとめ、発表することができる。 |
| | | 22 | | | |
| | 10 | 23 | | | |
| 後期 | | 24 | | | |
| | | 25 | | | |
| | | 26 | | | |
| | 11 | 27 | | | |
| | | 28 | **B生物育成に関する技術（11）**<br>1わたしたちの生活と生物育成<br>2生物の育成<br>3作物の栽培<br>5動物の飼育<br>6ベビーリーフの栽培<br>（実習） | ・生物育成の意味とその目的、わたしたちの生活における役割を知る。<br>・自分が育成する生物の育成計画を構想し、その育成に見通しをもつ。<br>・作物の特性を理解し、栽培に見通しをもつ。<br>・家畜には、様々な習性や飼育環境に応じた管理技術があることを知る。<br>・水産生物には、栽培に適した環境や食性などに応じた管理技術があることを知る。 | ・生物育成について理解し、ワークシート・ノートにまとめることができる。<br>・作物がよく育つ環境について理解し、ノート・ワークシートにまとめることができる。<br>・野菜の栽培について理解し、実践できる。 |
| | | 29 | | | |
| | | 30 | | | |
| | 12 | 31 | | | |
| | | 32 | | | |
| | | 33 | | | |
| | | 34 | | | |
| | 1 | 35 | | | |
| | | 36 | | | |
| | | 37 | | | |
| | 2 | 38 | | | |
| | | 39 | | | |
| | | 40 | **Cエネルギー変換の技術（6）**<br>2電気エネルギーの利用テーブルタップの作成<br>3動力の利用 | ・動力を効率よく伝える仕組みを知り、それぞれの特徴を理解する。<br>・人間はどのようにエネルギーを利用してきたかを考え、エネルギーの利用には様々な技術が必要なことを知る | ・動力伝達のしくみ、運動を変化させるしくみについてまとめ、説明することができる。<br>・機械の保守点検と整備の方法について、まとめることができる<br>・電気機器の安全な利用と、保守点検についてまとめることができる。<br>・テスタを操作することができる。<br>・テーブルタップ製作を通して、電源プラグの修理、 |
| | | 41 | | | |
| | 3 | 42 | | | |
| | | 43 | | | |
| | | 44 | | | |
| | | 45 | | | |

＊（　）内の数字は配当時間を表す。

# 令和４年度　年間指導計画

| 教　　科　　名 | 技術・家庭科（技術分野） |
|---|---|
| 学年・年間授業時数 | 3学年・17.5時間 |
| 使用教科書(出版社) | 「技術・家庭 技術分野」（開隆堂） |
| 使用副教材(出版社) | なし |
| 教 科 担 当 者 名 | 根岸　将人 |

## １　教科の目標

技術の見方･考え方を働かせ，ものづくりなどの技術に関する実践的･体験的な活動を通して，技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質･能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換 及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る 技能を身に付け，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深める。

(2)生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評 価･改善するなど，課題を解決する力を養う。

(3)よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実 に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

## ２　観点別学習状況の評価規準・評価方法

| 観点 | 評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|
| 知識<br>技能 | 生活と技術について理解しているとともに、それらに関わる技能を身につけている。 | ・定期考査<br>・実技テスト<br>・学習活動の観察<br>・作品<br>など |
| 思考<br>判断<br>表現 | 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | ・作品<br>・定期考査<br>・実技テスト<br>・学習活動の観察<br>・実習課題への取組<br>など |
| 主体的に<br>学習に取り組む<br>態度 | よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、創造し、実践しようとしている。 | ・学習活動への取組<br>・学習課題への取組<br>・実習課題への取組<br>・自己評価<br>など |

## 3　年間学習計画　《技術科：3年》

| 期 | 月 | 週 | 単元・教材名・配当時数 | 学習内容 | 学習のポイント |
|---|---|---|---|---|---|
| 前期 | 4 | 1 | ガイダンス | | |
| | | 2 | Ｃエネルギー変換の技術<br>（７．５） | | |
| | | 3 | 1わたしたちの生活とエネルギー変換 | ・エネルギーの利用<br>・エネルギー資源<br>・二次エネルギーの利用<br>・エネルギーの変換と効率<br>・電気エネルギー<br>・熱・光・動力への変換と利用 | ・人間はどのようにエネルギーを利用してきたかを考え，エネルギーの利用にはさまざまな技術が必要なことを知る。<br>・自然界のエネルギー資源について知り，それらを利用するしくみを理解する。<br>・さまざまな機器や機械をとおして，エネルギーをどのような形に変換し，利用しているのかを知る。<br>・エネルギー変換効率について理解し，エネルギーを有効に活用する方法を考える。<br>・わたしたちが利用している電源の種類や特徴を知り，どのように使い分ければよいかを考える。<br>・電気エネルギーを変換して利用するためのしくみを理解し，機器のしくみを説明できる。<br>・エネルギー変換を利用した製作品の構想をまとめ，目的にあった製作品を製作する。 |
| | | 4 | | | |
| | 5 | 5 | | | |
| | | 6 | | | |
| | | 7 | | | |
| | | 8 | | | |
| | 6 | 9 | 1電気エネルギーの利用 | ・熱・光・動力への変換と利用 | |
| | | 10 | | | |
| | | 11 | | | |
| | | 12 | 5製作品の構想と設計・製作 | ・製作品の設計と製作 | |
| | | 13 | | | |
| | 7 | 14 | | | |
| | | 15 | | | |
| | | 16 | | | |
| | 8 | 17 | | | |
| | 9 | 18 | | | |
| | | 19 | | | |
| | | 20 | | | |
| | | 21 | | | |
| | | 22 | | | |
| | 10 | 23 | | | |
| | | 24 | | | |
| | | 25 | | | |
| | | 26 | | | |
| 後期 | 11 | 27 | D情報の技術（10） | ・身の回りにある機器はコンピュータによって制御されていることを知る。<br>・コンピュータを用いた計測・制御の基本的なしくみを知る。<br>・情報を処理する手順を知り、目的や条件に合うプログラムを作成する。<br>・プログラム可能なディジタル製品の制作。<br>・ディジタル作品を計測・制御する。<br>・情報技術の発達と、社会の変化や環境とのかかわりを考える。 | ・身近な生活の中にある制御に関心を持ち、そのはたらきをワークシートにまとめることができる。<br>・身の回りの計測・制御システムを挙げ、三つの部分についてワークシートにまとめることができる。<br>・具体的な仕事の流れ図をかくことができる。<br>・プログラムができるディジタル作品を制作し、ワークシートにまとめることができる。<br>・プログラムにしたがって機器を制御することができる。<br>・コンピュータを利用してコンピュータによる計測・制御についてまとめることができる。<br>・情報技術の長所と短所を判断し、自分の将来や生き方への活用のしかたを考えることができる。 |
| | | 28 | 2-1双方向のあるコンテンツによる問題解決 | | |
| | | 29 | | | |
| | | 30 | 2-2計測・制御による問題解決 | | |
| | 12 | 31 | | | |
| | | 32 | | | |
| | | 33 | | | |
| | | 34 | | | |
| | 1 | 35 | | | |
| | | 36 | | | |
| | | 37 | | | |
| | 2 | 38 | | | |
| | | 39 | | | |
| | | 40 | | | |
| | | 41 | | | |
| | 3 | 42 | | | |
| | | 43 | | | |
| | | 44 | | | |
| | | 45 | | | |

＊（　）内の数字は配当時間を表す。